



気象衛星ひまわり運用事業株式会社

Himawari Operation Enterprise corporation



HOPE

Himawari Operation Enterprise corporation

HOPEが静止気象衛星「ひまわり8号・9号」を運用します。

気象衛星ひまわり運用事業株式会社(以下、HOPE:Himawari Operation Enterprise corporation)は、日本で初めてPFI手法を導入した衛星運用事業に取り組んでいます。

HOPEは、衛星管制を行うために必要な施設や観測データの受信・処理・伝送に係るシステム等を整備し、防災面での社会基盤の核である静止気象衛星「ひまわり8号・9号」(以下、ひまわり8号・9号)を安定的かつ持続的に運用します。

また、衛星の監視・制御・観測データの収集はもとより、地上施設・設備の維持管理や保守を行いながら24時間365日中断することなく気象庁へ観測データを送り届ける重要な役割を担います。



会社概要

会社名 気象衛星ひまわり運用事業株式会社
本社所在地 〒100-6525 東京都千代田区丸の内1-5-1
設立 2010年8月16日
HPアドレス <http://hope-pfi.jp/>

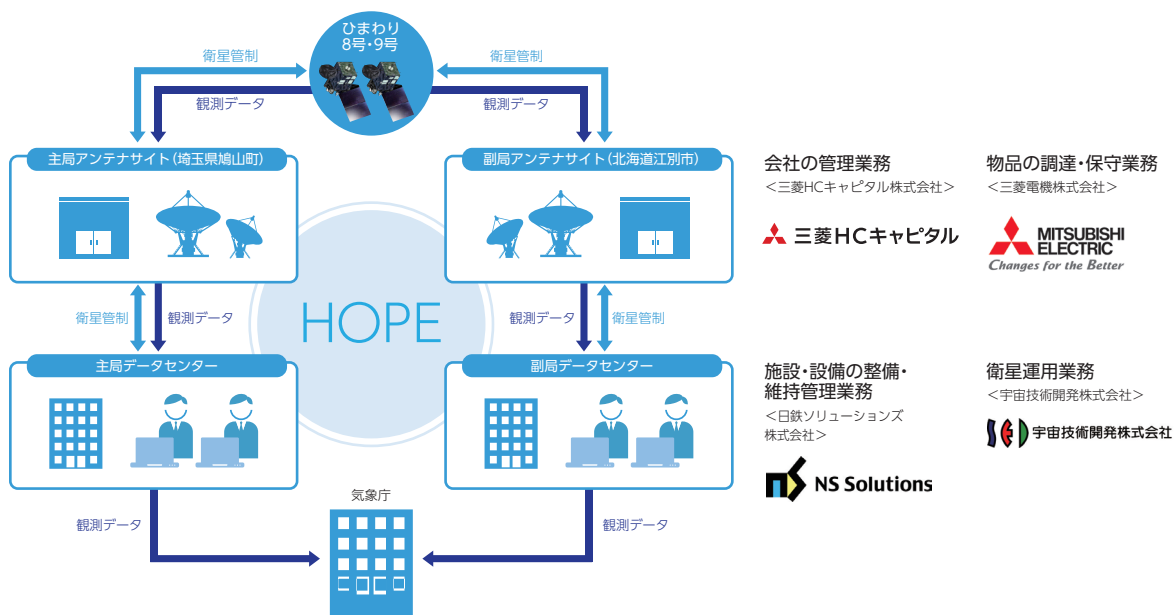
事業概要

- 1 地上施設・設備の整備業務**
ひまわり8号・9号の衛星管制及び観測データの受信・処理・伝送に必要な地上施設・設備の整備等を行います。
- 2 地上施設・設備の維持管理業務**
整備した地上施設・設備機能に係る維持管理、保守等を行います。
- 3 ひまわり8号・9号の運用業務**
ひまわり8号・9号を監視・制御するとともに、観測データを受信・処理し、気象庁へ伝送します。

事業推進体制

HOPEは、気象庁がPFI*1法に則して公告した、「ひまわり8号・9号の運用等事業」のプロジェクトを遂行するため、2010年8月に株式会社として設立されました。

HOPEから業務を受託する三菱HCキャピタル株式会社(代表企業・事業のマネジメント担当)、日鉄ソリューションズ株式会社(地上施設・設備の整備・維持管理担当)、三菱電機株式会社(地上施設・設備の物品調達・保守担当)及び宇宙技術開発株式会社(衛星運用担当)は、2030年3月末までの約20年間(整備期間約5年、運用期間15年)HOPEと共に事業を推進していきます。



*1:PFI(Private Finance Initiative)とは、道路や橋などインフラの設計・建設・運営を民間の資金やノウハウを使って整備する仕組み。本事業は、民間の資金、経営能力及び技術的能力の活用によって財政資金の効率的活用を図るため、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(平成11年法律第117号)に基づく事業として実施している。衛星運用業務へのPFI適用例は、本事業が日本初となる。

ひまわり8号・9号の紹介

気象庁は、台風など地上での観測が困難な現象の観測等を行うために、1977年の静止気象衛星「ひまわり」初号機以降、順次静止気象衛星を打ち上げております。ひまわり8号・9号は、「ひまわり7号」の後継衛星として領域観測に関する機能や性能の高度化²が図られています。これにより、より高精度の気象観測・予報観測が作成されてお茶の間に届けることが可能になっています。

観測データは、気象警報・注意報・天気予報の基盤として、国民の安全・安心に直結する気象業務の遂行にとって不可欠なものとなっているとともに、アジア太平洋域の30以上の国・地域で台風や集中豪雨などによる自然災害防止に重要な役割を果たし、日本の国際貢献としても高く評価されています。

*2:画像の解像度を2倍に向上(可視1km→0.5km、赤外4km→2km)、観測所要時間は従来の30分から10分に短縮(全球の撮像に要する時間30分→10分)、観測種別を約3倍(可視1ch白黒→3chカラー、赤外4ch→13ch)に増やす一方、新たに日本域などの小領域を高頻度に観測できます。